

静岡市監査委員会議記録

会 議 令和6年度 第10回 監査委員定例協議会

開催日時 令和7年1月30日(木) 午前9時10分～午前10時20分

出席者 監査委員 遠藤 正方、白鳥三和子、寺澤 潤、稲葉 寛之
事務局長 萩原 健
書記 柴 秀和
山田 和誠、山田 裕、渡辺 篤史、蝦名 倫代
宇佐美亜希、神山 悟、谷 梓
山本 和延、齋藤 升美

会議内容

1 開会宣言 柴次長

2 例月現金出納検査等(12月分)

冒頭、山田次長補佐から、各会計とも、検査調書に記載されている預金残額と通帳類などの実物を事務局職員が照合した結果、一致していることが確認された旨の報告及び各会計で実施した指定金融機関等の検査結果について報告があった。

(1) 説明者等

- ア 各種会計 会計管理者兼会計室長、会計室次長
- イ 病院事業会計 山田次長補佐(監査第1係)
- ウ 簡易水道事業会計 山田次長補佐(監査第1係)
- エ 水道事業会計 山本主査(監査第3係)
- オ 下水道事業会計 宇佐美係長(監査第2係)
- カ 農業集落排水事業会計 齋藤主査(監査第3係)

(2) 発言等

ア 各種会計

冒頭に宇佐美係長から第9回監査委員定例協議会で監査委員から質問があった静岡市立静岡病院事業債管理事業会計の執行率について説明があった。

(白鳥委員)

上半期の井川財産区会計の収入の説明で、国からの立木買い取り価格が想定より安価であったため、今年度に繰り越して収入したということだが、買い取り価格が安いと収入になるというのはどういうことか。

(遠藤代表)

国から買い取り、一旦支払ったが、想定より安かったので返金があった。同一年度であ

れば戻入で元の歳出予算に戻ったが、翌年度になり、歳入予算に収入したので、収入額が多くなったということでよいか。

(会計室)

そのとおりである。

(寺澤委員)

両河内財産区会計も同じようなことがあったのか。

(遠藤代表)

両河内財産区会計の収入額の増加の理由については、基金の繰入の時期が前年度は年度後半、今年度は年度前半だったためということですよ。

(会計室)

そのとおりである。

(遠藤代表)

昨年度の決算で、両河内財産区も井川財産区も基金の繰入額を間違っていたので、会計室のほうからも目配りをしていただきたい。

(会計室)

承知した。

(遠藤代表)

前年度末に、金融機関側の問題だったが、会計管理者口座の残高が合わないということがあった。今年度も同じようなことが起こる可能性があるので、金融機関と連携を取っていただきたい。また、企業会計でも同じことが言えると思うので、そちらも目配りしていただきたい。

(会計室)

承知した。

(白鳥委員)

上半期の説明の中で、母子・父子・寡婦福祉資金貸付金会計の収入が増えたのは元金収入が増えたためということだったが、着実に返済されているという理解でよいか。

(会計室)

一昨年度に外部委託により債権の徴収を始めてから、収入が増えてきたということを知っている。

イ 病院事業会計

山田次長補佐から第9回監査委員定例協議会で監査委員から質問があった預金支出内訳書の給与費について11月分が他の月と比較して少ない要因について説明があった。また、当月の例月現金出納検査調書3ページの基金積立金の予算現額の誤記載について説明があった。

(白鳥委員)

建設仮勘定に当月は250万円、先月は280万円が計上されており、建物等に振り替えられていない状況だが、何か建設中なのか。

(事務局)

先月の修繕とは異なる内容で、機械室にある吸気用の送風機が老朽化し運転が困難となったことに伴う更新修繕である。

(白鳥委員)

機械勘定等に振り替えられずに建設仮勘定のままにしているのは、修繕が完了していないということか。

(事務局)

当該修繕は1月の支払となっている。

(白鳥委員)

建設仮勘定への計上額が積み重なっており、今後、固定資産の科目や修繕費等への振替が行われると思うが、その内容が確認できたら教えてほしい。利益が出ていない状態のときに仮勘定に積み重ねておくと、減価償却や費用処理がなされないといったことが起こり得るため、仮勘定は注目して見ていただきたい。

また、前払金が355万円計上されているが、内容について説明してほしい。

(事務局)

前払金は、令和6年度消費税及び地方消費税の中間申告による納付である。

建設仮勘定については病院に確認するが、建設仮勘定に計上された場合、修繕として費用処理されることは基本的にはなく、一般的には期末に本勘定に振り替えられることになる。

(白鳥委員)

減価償却は供用開始した月からではなく、取得の翌年度から開始されるということであったか。

(事務局)

そのとおりである。

(遠藤代表)

3ページ支出に係る予算執行説明書の基金積立金の予算現額に誤りがあったとのことであるが、予算現額が先月の額と変わっているということは、病院は資料を作成する際にその都度データを打ち直しているのか。

予算現額は補正等がない限り変わらないにもかかわらず、その都度データを打ち直しているのだとすると、そこでまた誤りが生じるおそれがある。

(事務局)

誤りがあった原因について確認する。

(寺澤委員)

6ページ12月末日現在預金残高内訳表において、大口定期預金に予定受取利息の記載があるが、これはどの科目に計上されるのか。

(事務局)

基金分については資産勘定の基金に、預金分については収益勘定の受取利息配当金に計上される。例えば、当月は受取利息配当金の貸方に約500万円計上されているが、これは基金以外の大口定期預金の利息分である。

(遠藤代表)

医師の退職があったとのことだが、補充の予定はないということによいか。

(事務局)

皮膚科の医師であるが、今のところ補充の見込みはないと聞いている。

(遠藤代表)

皮膚科には他にも医師がいるということでよいか。その医師の退職により、科がなくなってしまうなどといった影響がないか確認してほしい。

(事務局)

確認する。

ウ 簡易水道事業会計

特になし

エ 水道事業会計

(遠藤代表)

退職給付引当金が2,300万円余計上されているが、複数人が退職したのか、勤続年数が長い方が退職したのか。

(事務局)

2人分の退職給付引当金であるが、その内1人の方が在職中に亡くなられて退職されているので、その方が大部分を占めている。

(遠藤代表)

2人退職していて、大部分がその方ということは、もう1人の方は割と勤続年数が短い方なのか。

(事務局)

もう1人の方は、亡くなられた方に比べて勤続年数が短い。

(白鳥委員)

4ページの人件費の欄に人数が記載されているところ、11月と人数に変化はないが、退職された方はここに含まれているのか。

(事務局)

2人のうち1人は10月中の退職となっており、12月の人数には含まれていない。もう1人は12月1日付けで退職とのことであり、今回の人数にはまだ含まれている。

オ 下水道事業会計

特になし

カ 農業集落排水事業会計

特になし

3 協議会議事

(1) その他連絡事項

ア 令和6年度第9回定例協議会議事録の公表について・・・・・・・・山田次長補佐が説明

イ 2月・3月の日程について・・・・・・・・柴次長が説明

4 閉会宣言 柴次長